

2021 生誕 100年

竹内浩三 愚の旗通信 4号

# 竹内浩三 まんがのよろづや



複製された『竹内浩三作品集』。

長い眠りから覚めた  
『竹内浩三作品集』。  
このマンガ集にこめた  
浩三の熱い思いが、  
今甦る！

「詩とマンガ」、「映画とマンガ」…  
複製版の一般公開は新たな浩三  
像を浮かび上がらせる。

自らのマンガ雑誌に「マンガをよろこばない人は子供の心を失ったあはれな人だ。」と書いているように、竹内浩三は詩や日記と同様にマンガを描くことを大切に、将来は漫画家になる夢を抱いていました。浩三のマンガは中学時代、個人雑誌「まんがのよろづや」を手書きでつくり、学校で回覧したのが始まりです。たちまち雑誌は人気を集め、同級生らも加わり、わずか2年足らずに7冊を出しました。

このように、浩三のマンガにかける情熱は誰にも負けない熱いものでした。後に、この7冊を浩三自身が自分の作品と友達との作品を区分けし、表紙を付けて製本したのが『竹内浩三作品集』です。いわば、浩三のマンガの原点といえます。松阪市の本居宣長記念館には、その原本が他の資料とともに所蔵されています。

生誕100年を記念して複製化  
残念ながらこれまで、竹内浩三のマンガについてはあまり研究や批評の対象にされてきませんでした。しかし、詩などの作品や人物像を知る上で、マンガの研究は避けて通れません。

二〇二二年、竹内浩三の生誕100年を記念して、伊勢市教育委員会と本居宣長記念館では共同事業として、同館に収蔵されている資料（筑波日記「伊勢文学（第7号）」、「竹内浩三作品集」や日記、手紙類）をデジタル化する取り組みを始めた。このデジタル化を契機に、生誕100年記念事業実行委員会（二〇二二年三月末解散）では記念事業の一環として伊勢図書館・小俣図書館・本居宣長記念館での閲覧を目的に、誰もが自由に全容を見ることができるよう『竹内浩三作品集』の複製化を行いました。同集はB5判、448ページ。上製本されています。

### マンガから読み解く浩三の人物像

マンガ研究家の伊藤遊先生はインタビュー（2〜3頁）で、詩や日記を書く浩三が「言葉の人ならマンガを描く浩三は、目の人である」と指摘されました。「旅行・日記」「似顔絵」「アート」「文学・物語」「考現学」等、浩三の描くマンガは幅広いジャンルにわたっています。マンガの研究は、まだ緒に就いたばかりです。複製版の一般公開により、さらに、マンガ研究の促進と竹内浩三の全体像が解き明かされる日が近いことを願っています。

### 竹内浩三（たけうちこうぞう）

1921年、宇治山田市（現伊勢市）生まれ。宇治山田中学卒業後、40年日本大学専門部映画科へ入学。在学中に同人誌「伊勢文学」を創刊。詩や短編小説、漫画を発表した。太平洋戦争が激しくなり、42年に繰り上げ卒業して中部第38部隊に入営。終戦間近の45年4月9日、フィリピンで戦死。23歳。戦後、遺稿集の刊行や、兵舎で綴った日記の公表により、詩人・表現者としての評価が高まった。代表作に「骨のうたう」「日本がみえない」。

のちに詩人となる浩三さんは、  
もちろろん『言葉の人』なのですけれど、  
この作品集を見ると、かなり  
『目の人』でもあるなあと、感じます

マンガ研究者  
伊藤遊先生に  
インタビュー



中学3年生のときに出した個人雑誌  
「まんがのよろづや」8月号

マンガ研究者で京都精華大  
学准教授の伊藤遊先生に、  
複製した『作品集』から竹内  
浩三のマンガを読み解いてい  
ただきました。

(聞き手／伊勢文化舎 中村賢一)

——『竹内浩三作品集』をご覧になっ  
て、まずどんな感想をお持ちでし  
たか？

伊藤 竹内浩三の名前を知ったのは  
詩人としてだったので、このようなマ  
ンガを描いていたと知ってびっくりし  
ました。

浩三さんは軍隊に入営後も日記を

書くほどの言葉の人だったわけです  
が、かなり『目の人』でもあるなあ、と  
感じます。五年生になって映画の道に  
進もうと決めるわけですが、表現者  
という点では共通かなと思います。

逆に、マンガから離れてしまう人  
も、中学生時代にこれだけのマンガが  
描けてしまう…。そういう実力のあ  
る人がたくさんいた日本という社会  
自体がすごいなと思いました。この『作  
品集』の最後の方にある浩三さんの  
同級生たちのページも結構上手に描  
けていて、この時代にマンガの描き方  
を知っている人たちが出てきたんだ  
と、そういう点でも貴重な資料とし  
て見ました。

——当時、中学生がマンガを描いて  
回覧するというのは？

伊藤 手塚治虫さんが小学五年生の  
時に、自分でノート一冊にマンガを描  
いて学校へ持って行って、同級生に回  
覧したといえます。同じことをやって  
いるなあ、浩三さんも、と思いました。  
これは、もともとと文学で行われてい  
た同人誌みたいなもので、住所を書

き、ルートを決めて回覧するので  
す。一九三〇年より少し後に生まれ  
た藤子不二雄さんくらいの世代にな  
ると、もう、ほとんど全国に、この  
直筆の生原稿をそのまま綴じた「肉  
筆回覧誌」を回して…という時代に

「全部」を調べて「絵」で報告する  
考現学の遊び心・好奇心に共鳴

——竹内浩三は、先生のご専門の考  
現学をマンガにとり入れて描いてい  
ますが…

伊藤 自分の部屋の配置図や、机  
の上に置いてあるもの、引き出し  
の中身を調べて細かく描いていま  
すね。考現学というのは民俗学者・  
柳田國男の弟子であった今<sup>こん</sup>和次郎<sup>わじじろう</sup>  
さんが提唱し、二冊の報告書が一  
九三〇年と三一年に出版されてい  
ます。

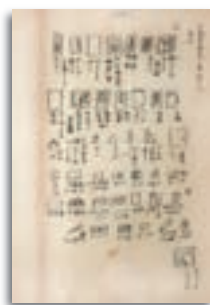
考現学の方法は、数をかぞえる・  
計測する、ある一定の地域にどんな  
ものがあるか分布を調べる、持ち物  
調べ、などによって、とにかく全部  
調べて全部記録する。目で見たもの  
を、絵を描いてビジュアルで報告す  
る、というものでした。

考現学が展開されたのは東京です  
が、自分の身の周りでも調べてみた  
ら面白い、という人が全国に登場し  
ました。専門家でなくても学問の素  
人でもできる。中学生の浩三さんが、

なっていました。投稿するシステム  
もありましたが、だいたいが新聞で  
した。印刷したマンガ投稿雑誌がで  
きて、全国の仲間たちに投稿して見  
てもらおうという方法は、戦後ほどな  
かった時代です。



「考現学」の手法を使って、姉のハンドバッグや自分の机の引き出しを細かく調べてマンガに描いた。「マンガ」10月号



その遊び心や好奇心に共鳴している  
ことは興味深いです。

——彼のマンガに、絵コンテとか、  
映画とのつながりは見られますか？  
伊藤 言われてみれば、絵コンテっ  
ぽい感じかな、っていう気もしまし  
たね。

当時一九二〇年代とか三〇年代の  
日本は、かなり海外のマンガやアニ  
メーションが入っていた時代です。  
浩三さんがそれを見ていた可能性も  
あるかもしれませんね。  
国産アニメもこれより少し前に、  
下川四天<sup>しもかみよん</sup>というマンガ家によって作  
られるようになっていました。

# 戯画・諷刺画からマンガへ

## 明治～戦前の漫画事情

幕末に來日したイギリス人記者、チャールズ・ワーグマンは、日本の様々な文化を1枚の絵に描いて残しました。後に「ボンチ絵」と呼ばれるものです。文久2年(1862)には、世相を風刺した画と文章で構成した雑誌「ジャパン・パンチ」を創刊しました。

その影響を受けて明治7年(1874)の「絵新聞日本地」や明治8年(1875)の「寄笑新聞」といった戯画・諷刺画を掲載した新聞が刊行されるなど、後の日本近代漫画の誕生に強い影響を与えました。

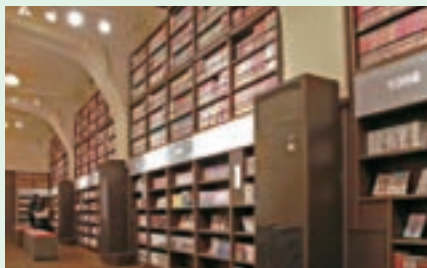
明治時代以降、新聞や雑誌といった定期刊行物が誕生して、日本のマンガは急速に広がっていきました。しかし、最初のマンガは戯画・諷刺画が中心で、絵師・浮世絵師・画家など、絵の教育を受けた人々の世界でした。

その流れを変える作品が昭和になって現れます。田河水泡による「のらくろ」です。野良の黒犬・のらくろが犬の軍隊に入隊して奮闘する物語です。その単行本では「アール・デコ」という規則的な表現方法(幾何学模様等)が用いられたことで、素人でも真似て描きやすくなっています。以降その影響を受けて多くのマンガが生まれ出されました。

### 京都国際マンガミュージアム

#### に行こう!

博物館機能と図書館機能を併せ持つ総合マンガ施設として2006年に開館。江戸時代のマンガから海外のものまで約30万点を所蔵し、そのうち5万冊は自由に手に取って読める。マンガの仕組みやマンガ文化の多様性を紹介する常設展も。



「マンガの壁」といわれる5万冊の蔵書。

住所 京都市中京区烏丸通御池上ル  
最寄り駅 烏丸御池駅[2]から徒歩2分  
電話 075-254-7414 FAX 075-254-7424  
営業時間 10:30~17:30(入場は17:00まで)  
定休日 火・水曜/年末年始/メンテナンス期間  
駐車場 なし  
入館料 大人900円/中学生400円/小学生200円  
HP <https://www.kyotomm.jp>

「坊ちゃん」を連載していますが、毛筆のユーモラスな線は比左良を模写して身につけたのではないかと、比左良のマンガは手本の一つだったのでは、と思われま

一方で一九三〇年代から四〇年代にかけては、マンガは読むだけでなく描いてみたいという人が増えてきた時代でした。マンガの描き方の本が次々と出され、「丸や三角を組み合わせるだけでマンガは描けるよ」と教える独習本を真似して、専門の美術教育を受けていなくてもマンガっぽい絵が描け

た当時の「慰問帳」が古本屋さんで時々出てくるのですが、のらくろとかフクちゃんとか、みんな上手です。浩三さんも、そんな描き方の本をいくつか見てるんじゃないかな。浩三さんは田中比左良のような伝統的な絵画の延長としてのマンガと、記号的な描き方によるマンガの両方

「竹内浩三が影響を受けたと思われるマンガ家は誰でしょうか?」  
伊藤 田中比左良というマンガ家があります。大衆小説に多くの挿絵を描いた人気の画家でもあり、一九三〇年代に『川柳漫画全集』や『名作挿絵全集』が出版されると、必ず入っているような大家でした。

一方で一九三〇年代から四〇年代にかけては、マンガは読むだけでなく描いてみたいという人が増えてきた時代でした。マンガの描き方の本が次々と出され、「丸や三角を組み合わせるだけでマンガは描けるよ」と教える独習本を真似して、専門の美術教育を受けていなくてもマンガっぽい絵が描けてしまう人が登場します。

た当時の「慰問帳」が古本屋さんで時々出てくるのですが、のらくろとかフクちゃんとか、みんな上手です。浩三さんも、そんな描き方の本をいくつか見てるんじゃないかな。浩三さんは田中比左良のような伝統的な絵画の延長としてのマンガと、記号的な描き方によるマンガの両方

絵画の延長としてのマンガと、記号的な描き方のマンガ……  
浩三さんは、その両方の流れを享受した時代の人ではないでしょうか



田中比左良を真似て描いたマンガ。比左良の文字がある。(「まんがのよろづや」8月号)

**伊藤 遊 (いとう・ゆう)**  
京都精華大学国際マンガ研究センター特任准教授。専門分野はマンガ研究・民俗学。マンガ研究における現在のテーマは「マンガ展」と「学習マンガ」、京都国際マンガミュージアムで開催される企画展のキュレーションも。民俗学における研究テーマは「考現学」。マンガ研究の著書に『はだしのゲン』(梓出版、2006年、共著)、『マンガミュージアムへ行こう』(岩波書店、2016年、共著)などがある。



の流れを、知らず知らずに享受した時代の人ではないかと思われま

# 竹内浩三とマンガ

## ① 紀行・日記

浩三は、実家が大きな呉服店であったこともあり、よく家族旅行をしていました。また、中学時代は山岳部に所属し、友人とキャンプにも出かけていました。そうした旅の思い出を出来事順に細かく記しています。「キャンプの記」の書き方は、一種の冒険譚「ぼうけんたん」のようにも受け取れます。



## 『作品集』には

二百数十点を超えるマンガが収められています。

その中からジャンル別に作品を選び、

解説とともにご紹介いたします。

## ② 考現学

考現学（こうげんがく）とは、観察したことを事細かに記録する学問のことです。創作活動において、五感の鋭敏さは無くてはならないものですが、特に浩三が重視したのが視覚。観察眼でした。観察したままに物事を描く浩三の能力は高く、自身の部屋を描いた頁では、それが十分に発揮されています。



## ③ 文学・物語

浩三と姉のこうは、母よしの影響で幼い頃からトルストイなどの文学作品にふれながら育ちました。「マンガ」九・十月号には、夏目漱石の「坊ちゃん」に挿絵（しえ）を付けてマンガに仕立てた作品が残されており、こうした文学が浩三の創作活動におけるアイデアのひとつであったことがわかります。



## ④ アート

一枚絵のいわゆる「ポンチ絵」と称される作品です。



一見何の変哲もない絵に見えるですが、絵の構図、タイトルの表記などに、浩三らしいどこかひねった表現が含まれています。「燈火親むべしの秋」では、少女の赤いワンピースや洋書を切り絵で表現するなど、浩三のこだわりが垣間（かいま）見えます。

## ⑤ 諷刺

日本のマンガの原点である諷刺（ふうし）。政治批判などの社会的なものが多



いですが、浩三が描く諷刺は、日常の疑問をあぶり出したユーモアたっぷりな作品です。直接的な諷刺でないのが少々わかりづらいのが玉にキズ。物事を面白おかしく見た結果、生み出されたポジティブな作品なわけです。

## ⑥ 人物・似顔絵

浩三は、自作のマンガの中にたびたび「似顔絵」を描いています。「似顔絵ノオケイコ」というタイトルのとおり、人の顔の描き方を習得するために描いたものです。描かれた顔の偉人は、髪型や輪郭、服装に特徴がある人物が多いのも、この似顔絵が練習台であることが伝わっています。



## 『愚の旗』復刻版のご案内



60数年の時を経て復刻！詩人・竹内浩三の原点の書です。

- ①初版本を徹底調査し、装幀など可能な限り近い形で復刻しました。
- ②詩の頁（53頁）を活版で印刷し、初版本の質感を再現。
- ③品質保証のため一冊ごとにナンバリング。函に入れて永久保存版としました。

B5判変形172頁  
上製本・和紙カバー  
定価8640円（税込み）  
送料1000円  
（北海道・離島は除く）  
発行（有）伊勢文化舎  
申し込み 小社またはアマゾンで

## ⑦ コママンガ

（ポンチ絵）

いわゆるポンチ絵の類（たぐい）です。明治時代後期から大正時代にかけたマンガの主流は、こうしたポンチ絵でした。浩三は『竹内浩三作品集』の中では、実に多くのポンチ絵を残しています。作風は、日常系のものから物語系、想像系など多岐にわたっています。



## ⑧ 学校生活・その他

『竹内浩三作品集』は全四百頁を超え、浩三が直筆で記した資料の中ではダントツの文字数と情報量です。しかし、意外にも宇治山田中学校での様子を記した作品は少ないのです。未だ光が当てられていない作品も多いため、今後、複製版を読み深めていくことで新たな発見があるかもしれません。



## 編集後記

「竹内浩三まंगाのよろづや展」（小社主催）に間に合うように4号を発行しました。伊藤遊先生が語る「目の人」としての竹内浩三。これは今後、浩三マンガを紐解くキーワードになるやもしれません。ともかく、浩三のマンガが詩と同様に、多くの皆さんに親しまれることを願っています。（賢）

『愚の旗』通信 第4号  
発行日/令和4年3月18日  
発行/(有)伊勢文化舎  
〒516-0008  
伊勢市船江2丁目22-25

☎0596・23・5166 Mail otayori@isebito.com  
協力/本居宣長記念館 京都国際マンガミュージアム

竹内浩三 まंगाのよろづや